

令和7年度 農林水産省補助事業
日配品の食品ロスに関するアンケート調査

資料4

公益財団法人 流通経済研究所

アンケートの概要	本アンケートは、食品小売業の日配品の食品ロス削減の取り組みについておたずねいたします。調査結果は集計して報告書にとりまとめ公表いたしますが、 個社の回答内容を個別に公表することは一切ございません。ご懸念なくご回答ください。
ご回答いただきたい方	貴社の食品商品部責任者様、もしくは日配食品部バイヤー様、またはそれに相当するお立場の方をお願いします。
問い合わせ先	お問い合わせがある場合、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。 (公財) 流通経済研究所 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-21 山脇ビル10階 営業時間10:00~17:00 アンケート事務局 石川、寺田 メール: foodloss-rs@dei.or.jp 電話: 03-5213-4532
アンケートのご返送方法	●締切期日 9月16日(火) ●食品ロス削減ワーキングチーム foodloss-rs@ctmctm.co.jp (調査事務局) にお送りください。

ご回答者様のお名前等を下欄にご記入ください。記入いただいた個人情報は、調査実施者および事務局内でのみ取り扱いします。

貴社名については、**前後いずれかの欄**で法人格を選択し、**中央の欄に法人格を除いた社名を入力**してください。

法人格を選択 (社名の前に付く場合)	法人格を除いた社名を入力	法人格を選択 (社名の後に付く場合)
貴社名		
法人番号		
部署名		
お役職		
ご氏名		
郵便番号		
都道府県		
住所		
電話番号		
Eメール		
集計レポートの送付希望	調査にすべてご回答いただいた方には、 もちろん集計レポートをメールでお送り致します。ご希望の有無をお知らせください。	
	1 希望する 2 希望しない	

※法人番号は12桁の数字です(回答は任意)

アンケートの回答方法

以下のような太線四角囲いの色付き箇所が回答いただきたい箇所です。

(例)  ←このようになっている箇所です。

自由回答欄は適宜行の高さを調整してご回答ください。

- 貴社の全社売上高としてあてはまるものを1つお選びください。〔1つだけ○〕

1	10億円未満
2	10~50億円未満
3	50~100億円未満
4	100~500億円未満
5	500~1000億円未満
6	1000億円以上

- 貴社の日配品部門の売上高としてあてはまるものを1つお選びください。〔1つだけ○〕

1	10億円未満
2	10~50億円未満
3	50~100億円未満
4	100~500億円未満
5	500~1000億円未満
6	1000億円以上

- 貴社の業態としてあてはまるものを1つお選びください。〔1つだけ○〕

1	総合スーパー
2	食品スーパー
3	生活協同組合
4	コンビニエンスストア
5	ドラッグストア・薬局
6	ホームセンター
7	その他

- 貴社が店舗を展開されている都道府県に○を記入してください。〔複数回答可〕

<地域>

北海道	☐	北海道	☐	岩手県	☐	宮城県	☐	秋田県	☐	山形県	☐	福島県	☐
東北	☐	青森県	☐	栃木県	☐	群馬県	☐	埼玉県	☐	千葉県	☐	東京都	☐
関東	☐	茨城県	☐	新潟県	☐	富山県	☐	石川県	☐	福井県	☐	神奈川県	☐
北陸	☐	岐阜県	☐	愛知県	☐	三重県	☐	奈良県	☐	和歌山県	☐	山梨県	☐
東海	☐	滋賀県	☐	京都府	☐	大阪府	☐	兵庫県	☐	山口県	☐	長野県	☐
近畿	☐	鳥取県	☐	島根県	☐	岡山県	☐	広島県	☐	大分県	☐	宮崎県	☐
中国	☐	徳島県	☐	香川県	☐	愛媛県	☐	高知県	☐	熊本県	☐	鹿児島県	☐
四国	☐	福岡県	☐	佐賀県	☐	長崎県	☐	沖縄県	☐				
九州・沖縄	☐												

1 日配品の売上高と確定発注数量連絡のタイミングについて

- Q1 貴社で販売されている日配品の以下の商品カテゴリーの年間売上高としてあてはまる選択肢を1つ選び、番号に○印をつけてください。〔1つに○〕

2 日配品のロス率（値引、廃棄）について

Q3 Q1の各カテゴリーについて貴社の納品期限（納入を許容する商品鮮度）と店舗販売期限（売場から下げる時期）に最も近いものを回答してください。〔1つに○〕

商品カテゴリー名	（1）納品期限(カテゴリーごとに1つに○)					（2）販売期限(カテゴリーごとに1つに○)						
	製造当日	製造日の翌日	製造日の2日後	製造日の3日後	左記よりさらに後でも可	消費/賞味期限まで	消費/賞味期限の12時間前まで	消費/賞味期限の24時間前まで	消費/賞味期限2日前	消費/賞味期限3日前	左記よりさらに手前	
パン												
豆腐												
揚げ												
納豆												
牛乳												
ヨーグルト												
ヨーグルト飲料												
洋菓子												
魚肉加工品												
惣菜												

Q4 貴社での日配品の値引・廃棄ロス率にもっとも近いものをそれぞれ1つ、回答欄に○印をつけてください。〔1つに○〕

※値引ロス率：売れ残り防止のための値引額÷売上高（特売など設定価格が安価なものは含まない）

※廃棄ロス率：売れ残りにより廃棄した商品代÷売上高

商品カテゴリー名	（1）値引ロス率(カテゴリーごとに1つに○)								（2）廃棄ロス率(カテゴリーごとに1つに○)							
	2%未満	2-4%未満	4-6%未満	6-8%未満	8-10%未満	10-15%未満	15-20%未満	20%以上	0.2%未満	0.2-0.4%未満	0.4-0.6%未満	0.6-0.8%未満	0.8-1%未満	1-2%未満	2-3%未満	3%以上
パン																
豆腐																
揚げ																
納豆																
牛乳																
ヨーグルト																
ヨーグルト飲料																
洋菓子																
魚肉加工品																
惣菜																

3 日配品の食品ロス削減の取り組みについて

Q5 貴社において実施されている、日配品の食品ロス削減に向けた取り組みについて、該当するものをすべてご回答ください。

自社の食品ロス削減に有効だと考える取り組み		回答欄
1	賞味/消費期限の延長	
2	自動発注システムの導入	
3	AI活用による需要予測高度化	
4	見切り率決定へのAIの活用	
5	小幅値引（商品が入荷したら、それ以前の入荷品を小幅に値引きして、賞味期限日付順に売れやすくすること）	
6	販売期限の延長	
7	見切り品コーナーの設置	
8	訳ありセール（規格外品、余剰在庫品などの特別販売／常設・非常設問わず）の実施	
9	量り売りの導入	
10	フードシェアリングサービス（売れ残り品を会員客に通知する仕組みなど）の活用	
11	農家等で発生する規格外品の活用（商品開発など）	
12	食品ロスに関する消費者啓発（イベント、セミナー開催、食育活動など）	
13	消費者に対し商品の「てまどろ」を促す啓発	
14	値下げ・見切り品の購入を促すための工夫を凝らした独自資材の展開	
15	季節商品の原則予約販売化	
16	フードドライブを店舗で実施することによる従業員の食品ロス削減意識の啓発	
17	消費者の食品ロス削減意識を促す独自啓発物の展開	

17 上記以外にも該当する取り組みがあればご記入ください。（自由回答）

Q6 貴社では、日配品の各カテゴリーの店頭での欠品率を把握していますか。

1	把握していない	→	Q7にお進みください。
2	わからない	→	Q7にお進みください。
3	把握している	→	以下の設問にご回答ください。
		↓ ↓ ↓ ↓ ↓	

日配品の店舗での欠品率はおよそどの位ですか。（いずれか1つに○）

また欠品率が関係する顧客サービス、店舗オペレーション、食品ロス、納品トラックドライバー不足などを総合的に考えたときに、今後、取引先からの納品リードタイムは短くすべきとお考えでしょうか。それとも長くすることも検討すべきとお考えでしょうか。下記の選択肢から最もあてはまるものをお選びください。（いずれか1つに○）

※欠品の定義は「本来あるべき商品が諸事情により用意されておらず、販売が出来ない状況」とします。

※欠品率は商品数ベースで「ある期間において、商品が欠品している日数や時間がどれくらいあるか？」等とし、貴社が集計された値に基づきご回答ください。

商品カテゴリー名	(1) 日配品の店頭での欠品率 【カテゴリーごとに1つに○】								(2) 今後、取引先からの納品リードタイムについて 【カテゴリーごとに1つに○】					
	0.5%未満	0.5～1.0%未満	1.0～1.5%未満	1.5～2.0%未満	2.0～2.5%未満	2.5～3.0%未満	3.0%以上	わからない	長くすることを考えている	どちらかといえば長くすることを考えている	どちらともいえない	どちらかといえば短くすることを考えている	短くすることを考えている	わからない
パン														
豆腐														
揚げ														
納豆														
牛乳														
ヨーグルト														
ヨーグルト飲料														
洋菓子														
魚肉加工品														
惣菜														

上記の(2)の今後の取引先からの納品リードタイムについて、上記のように回答された理由をご記入ください。（自由回答）

納品リードタイムを長くする 方針である理由	
納品リードタイムを短くする 方針である理由	

Q7 貴社の日配品のフードバンク・子ども食堂などへの食品の寄附の状況としてあてはまるものをすべてお答えください。（複数回答可）

1	自社の事業活動で発生する余剰食品を定期的に提供している
2	自社の事業活動で発生する余剰食品を非定期的に提供している
3	賞味期限が近づいた備蓄食品を提供している
4	フードドライブなどによって消費者から自社に集められた余剰食品を提供している
5	仕入先から集めた余剰食品を提供している
6	その他の方法・内容で余剰食品を提供している
7	余剰食品を提供していない

Q8 フードバンクに寄附した食品の費用は、全額を寄付金ではなく、費用とすること（損金参入）ができます。この税制での特例措置を活用されていますか。（1つに○）税制の特例措置の詳細は、次のURLの通りです。

（参考URL https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/attach/pdf/foodbank-10.pdf）

1	活用している	→	Q10にお進みください。
2	活用していない	→	Q9をお答えください。
3	わからない	→	Q10にお進みください。

Q9 Q8のフードバンク等への寄附での税制の特例措置を活用していない理由は何でしょうか。（複数回答可）

1	知らなかった
2	これまで行っていた棚卸評価額ゼロ（商品廃棄損を計上）の手続きを踏襲しているため
3	メリットが少ない
4	手続きが煩雑

その他に理由がありましたらご記入ください。（自由回答）

--

Q10 認定 NPO 法人など特定のフードバンクに対する寄付金については一般の寄付金特別枠で損金算入の上限が設定される税制上の優遇措置があります。

この税制での特例措置を活用していますか。（1つに○）

（参考URL https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/attach/pdf/foodbank-10.pdf）

1	活用している	→	Q12にお進みください。
2	活用していない	→	Q11をお答えください。
3	わからない	→	Q12にお進みください。

Q11 Q10の特例措置を活用していない理由はなんですか。〔複数回答可〕

1	知らなかった
2	これまで行っていた棚卸評価額ゼロ（商品廃棄損を計上）の手続きを踏襲しているため
3	メリットが少ない
4	手続きが煩雑
5	該当するフードバンク団体が近隣にはない

その他に理由がありましたらご記入ください。〔自由回答〕

--

Q12 フードバンク等に日配品を提供することのメリットとして認識しているものをお答えください。〔複数回答可〕

1	食品の廃棄費用を抑制することができる
2	食品ロスの削減に貢献することができる
3	企業イメージを高めることができる
4	困窮者の支援につながる
5	地域との結びつきを強めることができる
6	従業員のモチベーションアップにつながる
7	CSR・サステナビリティの取り組みとして報告・開示しやすい
8	行政や自治体との連携・信頼構築に資する
9	報道・メディア等で取り上げられやすく、広報効果がある

その他にもメリットとして認識していることがあればご記入ください。〔自由回答〕

--

Q13 フードバンク等に日配品を提供することの障壁となっていることをお答えください。〔複数回答可〕

1	自社の提供可能範囲にフードバンクがない
2	人手が足りない
3	費用がかかる
4	提供可能な食品がない
5	フードバンク側の食品受取条件（数量、温度帯、賞味期限残存期間など）に適合しない
6	食品を提供したいが、フードバンクに関する情報が不足している
7	提供後の品質管理に不安がある
8	事故発生時に対応できない
9	提供後に再販等のおそれがある
10	既存流通品とバッティングする
11	ブランド価値が損なわれる
12	事故やクレーム発生時の責任分担が不明確

その他にも障壁となっていることがあればご記入ください。〔自由回答〕

--

Q14 貴社では、自社日配品プライベートブランドの製造委託先に、プライベートブランドの日配品のフードバンク等への提供を認めていますか。〔1つに○〕

1	製造委託先によるフードバンク等への提供を認めている	→ Q15にお進みください。
2	製造委託先によるフードバンク等への提供を認めていない	→ Q16をお答えください。
3	日配品のプライベートブランド商品の製造委託を行っていない	→ Q17をお答えください。
4	分からない	→ Q17をお答えください。

Q15 自社日配品プライベートブランドの製造委託先によるフードバンクへの提供を認めている理由としてあてはまるものをすべてお選びください。

1	食品ロス削減につながる
2	困窮者支援につながる
3	廃棄処理費用の節減につながる

その他にも理由があればご記入ください。〔自由回答〕

--

→Q15のご回答後は、Q17へお進みください。

Q16 自社日配品プライベートブランドの製造委託先によるフードバンクへの提供を認めていない理由としてあてはまるものをすべてご回答ください。

1	自社の提供可能範囲にフードバンクがない
2	人手が足りない
3	費用がかかる
4	提供可能な食品がない
5	フードバンク側の食品受取条件（数量、温度帯、賞味期限残存期間など）に適合しない
6	食品を提供したいが、フードバンクに関する情報が不足している
7	提供後の品質管理に不安がある
8	提供後に再販等のおそれがある
9	既存流通品とバッティングする
10	ブランド価値が損なわれる
11	事故発生時に対応できない

その他にも理由があればご記入ください。〔自由回答〕

→Q16のご回答後は、Q17へお進みください。

Q17 今後、貴社では日配品のフードバンク等への食品提供を実施／拡大しますか。〔1つに○〕

	1	実施する／拡大する
	2	どちらかといえば実施する／拡大する
	3	どちらともいえない
	4	どちらかといえば実施しない／拡大しない
	5	実施しない／拡大しない
	6	分からない

7 その他〔具体的に記入してください〕

- Q18** 我が国では、トラック運転者不足のなかで国民生活や産業活動に必要な物流機能を安定的に確保するため、荷主企業や物流事業者が相互協力して物流の改善に取り組むことが求められています。次の項目から、貴社が過去3年間に取り組んでいる取引先への納品条件の見直しによる効率化の取り組みとして該当するものをすべてお答えください。〔複数回答可〕。また、その対象カテゴリについて取組内容ごとに○をご記入下さい。〔複数回答可〕 下記のカテゴリ以外の日配品での取り組みがあれば、その他の欄にカテゴリ名を記載してください。

取り組み内容	テーマ毎に過去3年間に取り組んだ対象のカテゴリに○（いくつでも）									その他のカテゴリ 〔具体的に記入〕	過去3年間に 取り組んでい ない（該当す るカテゴリに ○）
	パ ン	豆 腐	揚 げ	納 豆	牛 乳	ヨー グル ト	ヨー グル ト飲料	洋 菓 子	魚 肉 加 工 品	惣 菜	
1 取引先に対する納品期限緩和の提案											
2 取引先への確定発注情報共有の前倒し（リードタイム延長）											
3 取引先への追加電話発注の禁止											
4 取引先への納品物量の平準化											
5 休配日（配送を休む日）の設定											
6 物流付帯業務のサービス化の是正											
7 混雑時を回避するためのセンター着時間の見直し											

上記以外に物流改善に関する取り組みがございましたらご記入ください。〔自由回答〕

--

Q19 Q19で「2. 取引先への確定発注情報共有の前倒し（リードタイム延長）」を選択した方（実施している）におたずねします。貴社が日配品の納品リードタイムを延長して緩やかに運用しようと判断された理由としてあてはまるものをご教示ください。（複数回答可）

☐	1	トラック運転者不足などの状況の改善に貢献したいと考えたから
☐	2	物流費や配送コストの高騰に対応する必要があったから
☐	3	災害・天候等によるリスクに柔軟に対応できる体制を構築したかったから
☐	4	経営トップ・経営幹部により方針あるいは指示が示されたから
☐	5	取引先（メーカー・卸売業など）から提案を受けたから
☐	6	食品ロス・廃棄の増加に影響しないと判断したから
☐	7	売上に影響しないと判断したから
☐	8	お客様に対するサービスレベルの低下に影響しないと判断したから
☐	9	社会的要請に対応するため

上記以外に該当する理由がございましたらご記入ください。（自由回答）

Q20 貴社の自動発注の導入状況についてあてはまるものをご教示ください。（1つに○）

☐	1	AIを活用した自動発注（手動修正なし、完全自動）を全店で導入している
☐	2	AIを活用した自動発注（手動修正なし、完全自動）を一部の店舗で導入している
☐	3	AIを活用した自動発注（手動修正あり、セミオート発注）を全店舗で導入している
☐	4	AIを活用した自動発注（手動修正あり、セミオート発注）を一部の店舗で導入している
☐	5	AIを活用していない自動発注（手動修正なし、完全自動）を全店で導入している
☐	6	AIを活用していない自動発注（手動修正なし、完全自動）を一部の店舗で導入している
☐	7	AIを活用していない自動発注（手動修正あり、セミオート発注）を全店舗で導入している
☐	8	AIを活用していない自動発注（手動修正あり、セミオート発注）を一部の店舗で導入している
☐	9	自動発注を行っていない（手動で発注している）

上記以外に該当する場合がございますらご記入ください。（自由回答）

7 事例の公表について等

Q21 弊社では、農林水産省の事業として、食品ロス削減に向けた受発注の改善やフードバンク活用の促進等のための事例創出、実証実験などのサポートを行っています。こうした取り組みへのご協力意向をお教えください。（複数回答可）

☐	1	小売業向け商品需要予測サービスを用いた日配品の需要予測向上の効果検証
☐	2	販売期限延長による食品ロス削減の効果検証
☐	3	フードバンク活用の取り組みの効果検証
☐	4	需要予測向上に関する事例情報の提供
☐	5	納品リードタイム延長に関する事例情報の提供
☐	6	販売期限延長に関する事例情報の提供
☐	7	フードバンク活用の事例情報の提供

上記以外に希望されるサポート内容がございましたらご記入ください。（自由回答）

Q22 アンケート結果をもとに、下記についての貴社の取り組み状況を、食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム事務局や農林水産省ホームページで公表させていただきたいと思います。社名の公表を可否をお知らせください。難しい場合は理由をお知らせください。なお公表は、具体的な公表内容・方法を貴社に事前に確認・了解いただいた上で行います。

項目		いずれかに○		公表不可の理由（自由回答）
		公表可	公表不可	
A	販売期限の延長（賞味/消費期限当日まで販売している企業を公表）			
B	フードバンクへの余剰食品の提供			
C	「てまえどり」の実施			
D	物流の改善に関する取り組み			

Q23 自社の食品ロス削減の取組に関するWEBページがある場合、農林水産省等のHPでご紹介いたします。希望の場合、下記にURLを具体的に記入してください。

Q24 下記フォーマットを参考に取組事例を整理いただいた場合も、農林水産省等のHPでご紹介いたします。ご希望の場合、アンケート事務局までメール送付ください。
よろしければ下記URLのフォーマットをご活用ください。 現在公表されている事例は下記のURLよりご確認ください。

https://www.dei.or.jp/research/torikumi_format

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/syokansyu/jirei2024.html

参考：事例フォーマット（A4×1枚を基本とする）

【〇〇株式会社】食品ロス削減・リサイクルに向けた取組

<商慣習の見直し（納品期限の緩和、販売期限の延長の取組）>
○（対象品目、実施開始時期などについて記載）。

<食品ロス削減・食品リサイクルの取組>
○（上記の取組以外でPRしたいことを記載）

（上記取組内容の具体的な内容を記載）

図・写真

【関連ウェブサイト】
○○

【お問い合わせ先】
○○部○○課（03-○○○○-○○○○）

8 貴社における食品ロスの発生状況

Q25 貴社の日配品部門において、過去1年間に発生した食品ロスの発生量としてもっともあてはまるものを1つお選びください。

1	売上高の0%
2	売上高の0%超～0.1%以下
3	売上高の0.1%超～0.2%以下
4	売上高の0.2%超～0.3%以下
5	売上高の0.3%超～0.4%以下
6	売上高の0.4%超～0.5%以下
7	売上高の0.5%超～1.0%以下
8	売上高の1.0%超～1.5%以下
9	売上高の1.5%超～2.0%以下
10	売上高の2.0%超

Q26 貴社の日配品部門において、過去1年間に発生した食品ロスの主な要因の内訳構成比を数字（単位：％）でご記入ください（合計100%になるようにご記入ください）。

1 需要予測・在庫管理の不適正（過剰発注など）

2 商品の品質劣化・破損（期限切れ、傷みなど）

3 値引きや陳列施策の不適正（値引き遅れなど）

4 納品・取引ルール等の制度的要因（賞味期限ルールの厳格さなど）

5 消費者・従業員起因（消費者からの返品、取り扱いミスなど）

6 その他

合計 0 %

これでアンケートは終了です。ご回答ありがとうございました。